

「平成 27 年度 気になる子どもの保育研修会」報告書

【期 日】 平成 27 年 11 月 19 日（木）

【会 場】 ロイヤルチェスター佐賀

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 108 名

【内 容】 研修 1 「全国保育士会 DVD」視聴 10：00～10：15

研修 2 「発達障害のある子供の理解と支援」

講師：芳野 正昭氏（佐賀大学 文化教育学部 教授）

10：30～12：00 ／ 13：00～16：00

研修 1．全国保育士会 DVD 視聴

- 構成の内容
1. 保育園の目標
 2. 保育園の 1 日
 3. 保護者の声



研修2.「発達障害のある子供の理解と支援～自閉症を中心に～」

講師 芳野 正昭氏（佐賀大学 文化教育学部 教授）

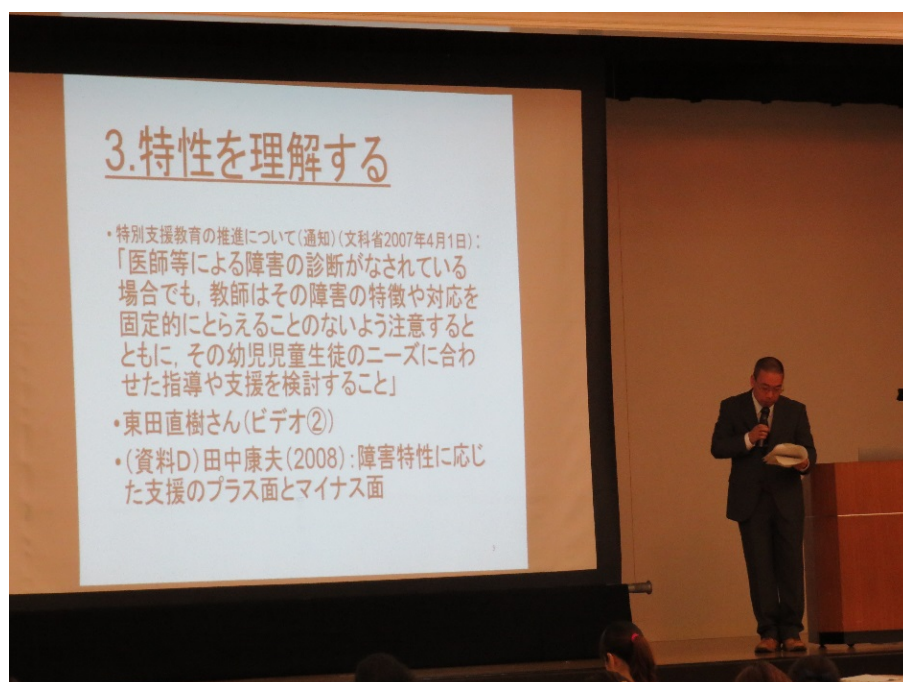


○見方を変える

- ・ビデオ：Nちゃんの保育実践から学んだ事
- ・子どもの心を読み取る、子どもに寄り添う、子どもの心を支えることで相互信頼関係に結びつく。

○内面を読み取る

- ・事例：Mちゃん
- ・ビデオ：東田直樹さん
- ・保育とは教育と養護である。一人一人の違い、子どもの気持ち、内面を理解する



○特性を理解する

- ・「医師等による障害の診断がなされている場合でも教師はその障害の特徴や対応を固定的にとらえることのないよう注意すると共に、その幼児児童生徒のニーズに合わせた指導や支援を検討する事」

参照：「特別支援教育の推進について」 文科省 2007 年 4 月 1 日

○広汎性発達障害

- ・社会性の障害を共通に持つ発達障害→自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、レット症 候群、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害

○DSM-5（2013）

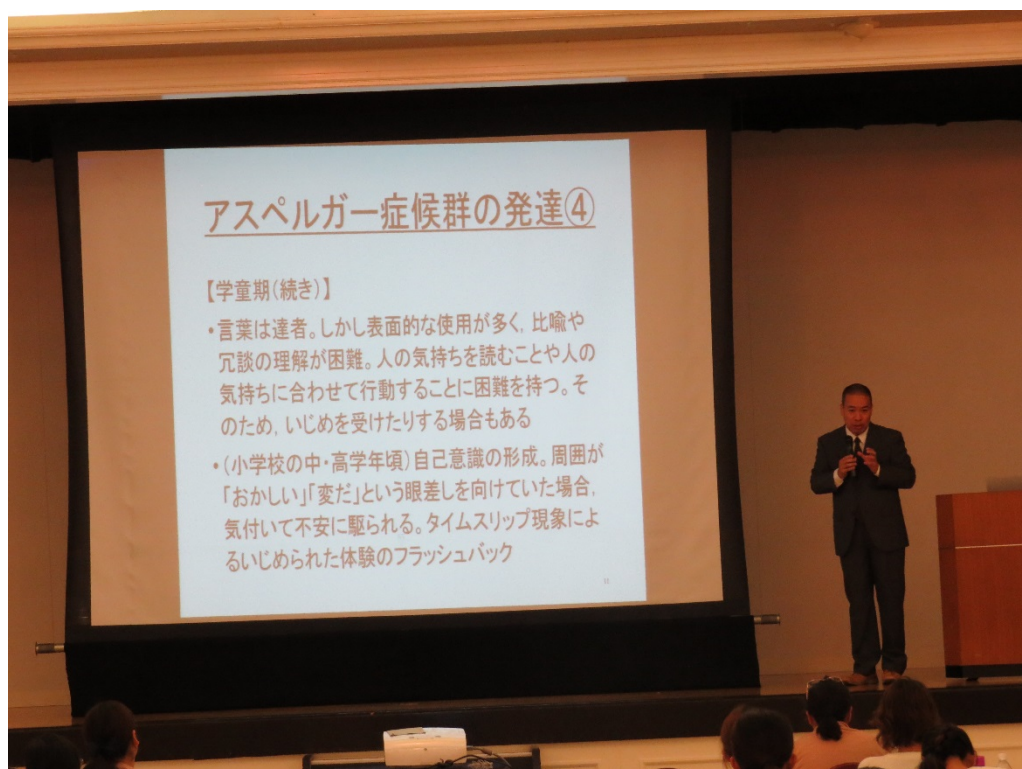
- ・広汎性発達障害から「自閉症スペクトラム障害」に変更

○罹病率

- ・男女比：およそ 4～5：1
- ・自閉症に影響を与える遺伝子は数多く存在。自閉症になるかを決める遺伝子はおそらく存在しない。遺伝子に基づいた「個性」が発達の過程でどのように現れてくるかについては、どのような経験、学習をするのかにより大きく変わってくる。

○自閉症の定義（旧）

- ・ウイングの 3 つ組（自閉症の基本症状）
- ・アスペルガー症候群の定義
- ・社会性の障害・言葉の遅れが明確でない・固執性、想像力の障害

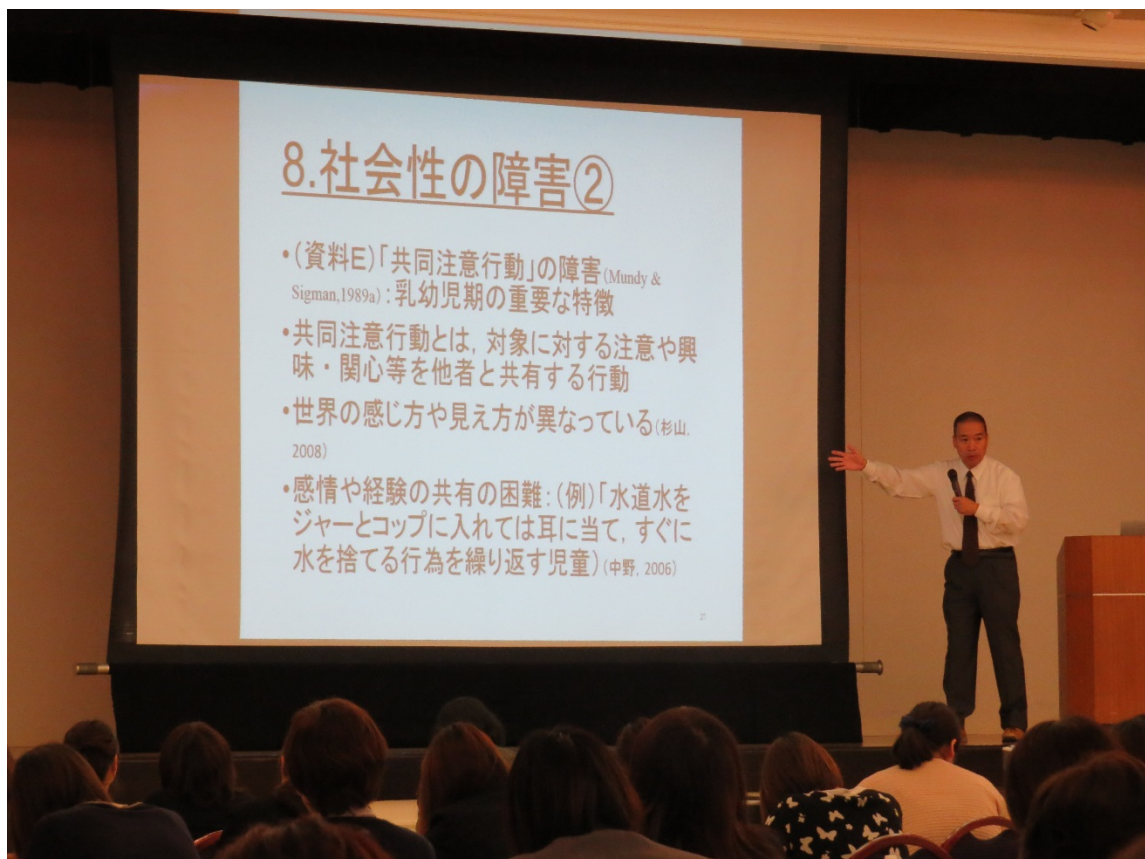


○高機能自閉症の定義

- ・他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、特定のものへのこだわり→3歳位までに発症し知的機能の発達の遅れを伴わないもの

○社会性の障害

- ・視線が合わない・社会における暗黙の了解が分からない・原叙述の指さしの遅れ
- ・「感情認知障害説」→表情やジェスチャーの理解が困難
- ・「共同注意行動の障害説」→対象に対する注意や興味、関心等を他者と共有する
- ・「心の理論障害説」
 - 他者の意図や信念を推し量る能力の欠陥に社会性の障害の原因をみる原因説
- ・幼児期、養育者との愛着関係の形成は非常に重要な課題



○コミュニケーションの障害

- ・社会性の障害を基盤とする言葉の障害
 - 言葉の遅れや会話の困難・反響言葉・その子独自の言葉の使用・人称代名詞の逆転・疑問文で要求・比喩、冗談、曖昧な表現の理解の困難
- ・想像力の障害

○基本症状以外の問題

- ・タイムスリップ現象→過去のフラッシュバックによる再体験
- ・視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚・偏食などの敏感又は鈍麻。
 - 全てにおいて過敏ではなく、1人の中で敏感、鈍麻な面がある

○認知・行動の特性

- ・強い不安や緊張を感じ易い・情動の混乱を起こし易い・視覚的な情報処理が優れている・シングルフォーカス・感覚過敏 → 1人の子どもの特性を全て備えている訳ではない

○認知・行動上の特性への対応

- ・子どもの立場に立って寄り添う。予定の変更を予告する。納得するまでリハーサルをする。
不安がなくなるまで一緒に活動する。
- ・視覚支援→わかりやすく指示を出す

○安心感のある園生活

- ・強い不安・緊張の原因→ふるまい方が分からない
- ・保育の在り方：「人との関係」「コミュニケーション」「環境構成（構造化）」
「ソーシャルスキル（社会性）の学習」等を通じた安心感を育む

○安心感を育む支援

- ・構造化：「理解できる」「見通しが持てる」
信頼関係：「頼みとする先生がいる」その先生からの指南
その先生との共同処理：「一緒に遊ぶ」「困っていることを輔ける」
コミュニケーション支援：表現手段獲得。「伝わる」「理解できる」
ソーシャルスキル：ふるまい方が分かる

○構造化の役割

- ・「視覚的な支援は発達障害幼児の保育そのものではなく、この子ども達にとって の眼鏡
や松葉杖に代わる物であり、発達の力そのものを伸ばすものではない」
参照：境港市児童発達支援センター陽なた

○乳幼児期の支援

- ・楽しく豊かな園生活の実現をめざす



◎効果及び評価

知識として知ることには大切だが、勉強をすればする程、子どもの行動を自閉症の枠に当てはめてしまいがちになる。保育のプロとは子ども自身の特徴を知ったうえで、その子自身にあった保育ができる事だと痛感する。アランの言葉より「子どもを理解する為には子どもを教えてみなければならない」理解と教えるは好循環でなければならないという事が心に残る。

子)